



# コンテ

## 2005.5

### 泥棒製造会社

ある有名企業の社長のお話です。  
かつて、その会社の社員が大金を横領するという事件がありました。社長は困り果てて、自分の尊敬する人にこの件で愚痴をこぼしました。そうするとその人は社長に向かって、「あなたは、泥棒製造会社の社長だね」と言ったのです。つまり、横領をした社員は、入社したときから泥棒だったのか、あなたの会社に入社したから泥棒になったんじゃないのか、だとすると、あなたの会社

が泥棒を作っているということではないか、ということはその人は、言いたかったのです。

会社を経営する目的は、顧客満足でも社会貢献でもなく、人材育成である、と言い切る経営者がいらっしゃいます。

「人材育成を目的にして事業を進めていると、自然に顧客は満足するし、社会に貢献する事ができる。だから当社の目的は、人材育成なのです。」

この社長は続けてこう言われます。

「人を育てるといことは、結局は経営者である自分

が成長しないといけいなのです。自分自身が会社でもっとも本を読み、文章を書き、人の話を聞いて学ばないと、社員が育つということはありません。」

経営者は、経営者であると同時に、「教育者」であり、「哲学者」であり、「思想家」でないといけいといわれています。新年度が始まった今、今年度の抱負の一つにしたいものです。

【降旗 達生】

### 紙、ゴミ、電力、本当にそれでよいのか？

「地球」私たちは今、この地球の姿を衛星から送られてくる写真で観ることができる。遠くは古代エジプトより夜空に輝く星々に願いを託していた時代、近くはガリレオらが宇宙の神秘に語り懸けた時代、誰がこの青い地球を想像できたであろう。先人たちがこの地球の姿を知っていたのなら「地球」ではなく「水球」と名付けられた筈である。青々と光輝くその姿は水球に他ならない。それほどに地球は水が豊かな惑星なのである。ところがその地球に存在する水の量は海水が97.5%を占め、淡水は僅か2.5%に過ぎないのである。更に淡水の内、私たちが利用できる水は極限られた量なのである。その多くは氷河、地下水として地球内部に閉じ込められ活用できない。

仕事柄、環境マネジメントシステム審査で各企業を訪問する機会がある。どの企業も企業としての責任、先進国の役割

として環境問題を真剣に捉え、この豊かな地球環境を次世代へ継承するため様々な工夫が試されている。環境への影響を考慮し、エネルギーの削減に全社一丸となって取り組んでいる。電力エネルギー削減のため冷暖房を規制する。資源の有効活用のためコピー用紙の無駄を省く、ゴミの分別による再資源化などなど、どれも立派な活動である。この地道な活動なくして循環型社会の構築は有りえない。しかし、その一方でトイレの排水、洗濯、水撒きが何の戸惑いもなく「飲料水」によって行なわれている現状に多くの人が矛盾を感じていない。

一日の生活水を得るために何時間も掛けて水場に出向き、水汲みそのものが生活であるとする発展途上国の人々から見れば、良いところの坊ちゃんがママゴトをしているとしか思えないのである。今一度、循環型社会のあり方を再考したいものである。

有限会社 ACNET 技術士事務所  
代表取締役 間瀬 雅彦



### VEリーダー認定試験受験申込が始まります！

受験申込み期間及び資格の内容	
期 間	2005年6月8日(水)~2005年7月8日(金) (7月8日消印有効)
受 験 料	21,000円
試 験 日	2005年8月27日(土) 14:00~16:00
合格発表	2005年10月初旬頃
受験資格	受験する年度の3月31日時点で満20歳以上であること。 12時間以上のVE研修の受講をしている方。
主 催 (お問合せ先)	〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-4-15 真井ビル6F 社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会 (略称: 日本VE協会) TEL: 03-5430-4488 FAX: 03-5430-4431 URL: <a href="http://www.sjve.org/">http://www.sjve.org/</a> Email: info@sjve.org

### お客様の声

株式会社肉のヤマト

代表取締役 加納 祐一郎様

### キーワードは業績アップ

『ISO14001 認証取得のきっかけはどのようなことからでしょうか?』

食品製造、業界は最近色々な事故や不祥事がありました。そのような中で、お客様の信頼と他社への識別をつけるには国際標準の ISO が一番と思ったからです。

『取得後、何が一番変わりましたか?』  
社員が目標に向かって、自主的に活動をしてくれました。むしろ私や常務も事あるごとに啓蒙し納得が行くまで、説明会や朝礼で話をしました。そのような中で、なぜ ISO を取得するのかを明確にすることが「キーワード」だったように思います。明確にすることにより、皆の気持ちが一つになり、推進会議はスピードと完成率が高まったようです。

『「キーワード」とはどのようなことでしょうか?』

唯一、業績アップです。このような事を言うと真剣に環境のことを考えていらっしゃる方にお叱りをうけるかもしれませんが、利益率を上げ社員やお客様に還元することが究極の目的としました。ですから、私の動機は不純です。(わっはぁ・・・!)

『今後はどのように展開されていきますか?』  
常に固定費、変動費の減少数字と連動させ、目的目標を追求することです。

追記; インタビュアーの感想  
熱血漢で、肝の据わった社長でした。社員に対して教育熱心で、繊細に社内の状況を見極めて取り組まれていると感心しました。益々のご発展とご活躍を願っています。ありがとうございました。

### あなたの会社は 9000 or 14000 ?

### 第2回 審査員の目

前回は京都議定書の発効と、わが国政府の対応に変化が見え始めたことについて述べた。今回は ISO9000s との関連について、審査員の立場から記述する。

ISO は 9000s (品質) と 14000s (環境) の二本立てとなっていることはほとんどの人が知っている。ただし、組織が取り組む場合に 9000s からスタートするか、14000s からにするかといった葛藤にしばしば陥る。企業側の本音としては、「そんな面倒くさいことはしたくない」ということが見え隠れするが、親会社から言われているとか、入札条件に入り始めたので仕方がないから始めるところが大多数だ。「やる」と決まった以上、自前でやるかコンサルタントを入れ手伝わってもらうかの決定に迫られる。

さて、ここでは審査員の目からアドバイスしてみよう。審査員は受審企業に対し、助言や方向性を示してはいけないことになっている。つまり、審査とは「規

格要求事項に適合しているか否か」を判断するだけだからだ。そう判っていないが、いつも、「なぜそんなに重いシステムを構築しているの?」「なぜシステムの維持管理にそんなに金をかけているの?」と疑いたくなる企業が多いことも事実である。この種の企業の多くはコンサルティングを受けずに自前でシステムを構築したものが多く、いろいろな企業や、市販図書からの情報が錯綜し、規格要求事項以上の過大なものに仕上げられている。システムを重くすると維持に金がかかる。外に出て行く金がないため得たような錯覚に陥っている経営者が多いが、もっとも金がかかるのは社員の給料だということをお忘れはならない。

9000s・14000s はどちらから始めてもよいが、「要求事項の多い9000s からスタートした方が、後が楽」というだけの理由で、私は品質から取り組みを薦めている。

有限会社たくみ 代表取締役 山口工